

マルチメディア時代の統一パッケージメディアを目ざして  
 Creating a Single Software Solution for the Multimedia Era



山田 尚志  
 Hisashi Yamada

DVD の市場は北米での立上りが早く、すでにプレーヤーは 100 万台を超えたと言われています。日本では若干遅れている感はあるものの、ソフトのタイトル数も 500 を超え、1998 年には大きく飛躍することが期待されます。DVD の市場導入は 96 年 11 月 1 日であり、2 年目に入ったところです。かつてこのようなスピードで大型商品が立ち上がったことはなく、異例のスピードです。これは、当社が提案した AV (Audio Video)、パソコン (PC) 環境での統一メディアというコンセプトと、ユーザーの意見を取り入れた規格の制定が広く受け入れられたことによるものであり、また DVD の普及は DVD フォーラム加盟各社の協力と努力のたまものと考えます。

DVD の発展には、ソフトの普及が大きなきぎを握っていることは言うまでもありません。ソフトとハードは鶏と卵にたとえられますが、DVD の提案は、高画質デジタルコンテンツ キャリアの実現により、ソフト産業に新たな事業の機会を提供し、さらに良いソフトの創造を促すことでもありました。徐々にこれらのソフトも増えていることは、今後のソフト業界の発展に大きく寄与できるものと考えます。

今後、オーディオ規格、次世代高密度記録再生ディスク規格の提案などが予定されており、さらに DVD 規格を充実させるべく広く協力を求め、ほんとうにユーザーのためになる DVD の実現に努力をしなければなりません。また、青色レーザーの実用化も目前の状況から、夢の高精細 DVD の実現も現実のものになりつつあります。DVD 規格は拡張性が考慮されているため、高精細 DVD も DVD ファミリーとして問題なく組み入れることが可能です。このように、DVD はマルチメディア時代の統一パッケージメディアとして、中心的役割が期待できます。同時に、高画質画像の提供により、高画質大画面ディスプレイの普及を促し周辺への大きな市場開拓の波及効果も期待できます。

今回の特集号では、当社の最新の技術開発の成果を披露いたしますが、今後も DVD の提案会社として、DVD の普及と技術の進歩に貢献していく所存です。